

1. 3TMRにおける頸部DWの画質改善の検討

那須赤十字病院 ○ 石原 誠

【目的】

3Tにおける頸部領域におけるDWでは、磁場の不均一によると思われる歪みがしばしばみられる。これを改善するために健常ボランティアに手伝ってもらい検討する事にした。

【方法】

使用装置はSIEMENS社製3T Skyra Ver.D13。使用するコイルは20ch HEAD/NECKコイル、18ch BODYコイル。撮像は当院の頸部用の条件とする。歪みを軽減する方法の一つとして頸胸部間の体厚（上顎～大動脈弓部）の違いを無くすために分割で撮像する。二つ目としてHEAD/NECKコイルだけではなく、より多くの信号を得るためにBODYコイルを使用する。これら二つの方法を組み合わせて画像を得る。撮像範囲はすべて同じにし、コイルは単独および併用して撮像する。

【結果】

同じ範囲の撮像を分割する事により歪みの軽減を確認できた。しかし、BODYコイルを使用した事による画像の改善はあまりみられなかった。

【考察】

上下顎部と頸胸部を分割して撮像する事により、磁場の不均一による影響と歪みを軽減出来た事でこの方法が有効であると考えられる。